

## 謝辞（退官に際して）

研究員担当所員 教授 吹貝 賢一

研究員数と報告書数

2002.2

年 度	研究員数	個人研究	協同研究	論文合計
1992	19	8	4	12
1993	13	9	1	10
1994	19	8	4	12
1995	14	11	1	12
1996	13	8	2	10
1997	24	11	2	13
1998	10	6	1	7
1999	6	6		6
2000	6	6		6
2001	6	6		6
合 計	130	79	15	94

本号は10号を数える、10年一昔というが、ちょうど良い区切りであろう。当センターの研究員制度は、センターの地域学校に対する奉仕貢献活動の一事業として発足した。すなわち、研究紀要等の出版印刷物を持たない多くの小中学校や、紀要を持たない高等学校に勤務する教員に彼等の研究物を掲載する機関誌を提供し、日頃の教育実践を通しての教育研究業績を世間に公表することにある。また、大学を卒業後かなりの年月が経つと論文が書けなくなる傾向になるが、今一度論文が書けるように支援することと、教育現場に埋もれがちな優れた教育実践の記録や教材開発を収録し紹介することが、この制度の目的であった。10年経過した今、振り返ってみると、学術論文とは異なるが、教育論文あるいは報告書としては価値あるものになっていると思う。事業の目的はほぼ達成された、と言えよう。現在までの研究員と報告書の数は上の表の通りである。研究員の数は減少傾向にあるが、6名程度が指導支援の便や報告会運営の面から妥当なところである。今後はそれぞれの報告書が全国の教科教育学会で十分通用するような形式と内容を備えるように発展することを祈願しつつ、永年の協力とご支援に感謝し、私の仕事仕舞いとす。

02.03 記.